

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No. 6

日本デイケア学会広報委員会
2002年4月30日 発行
日本デイケア学会事務局
〒160-0023 新宿区西新宿6-7-1
東京医科大学精神医学教室内
TEL: 03-3342-6111
FAX: 03-3340-4499
E-mail: info@daycare.gr.jp

**第7回デイケア学会の開催に
当って**

理事長 加藤 正明

デイケア学会第7回大会が、友部病院の弘末 明良院長を会長に、今年の9月19日に開催されます。学会を巡る諸般の状況も、大分変化していますので、会員の皆様からの多くの報告や研究が多数集まり、多数の出席者が参加されることを期待します。

ところで、WHOの賛同もあり、今年の4月から精神障害者居宅生活支援事業（ホームヘルプ、ショートステイ、グループホーム）が、市町村への委託によって始められます。これまで都道府県を中心に行われて来た精神障害者の社会復帰が、市町村に重点を置いて、地域保健福祉中心の方向に動き出すとのことです。今日まで病院内に治療共同体を作って患者さんの社会復帰を進めて来たのですが、欧米では病院中心から地域保健福祉中心に移っており、日本では1955年ごろから精神科病院ができて来たために、精神病院の病床を増やすことだけに追われて、精神障害者の地域保健福祉が遅れていたことを世界の各国やWHOから指摘され続けてきたのでした。世界の先進国が1960年代から精神科病床を半減させてきたことと、WHOの何回もの勧告にもかかわらず、日本では精神科病床を増やすことに追われ、韓国のHo Young Lee教授が2年前に精神神経学雑誌の102巻3号に、Wake Up Callという題で懇切に述べられたように、日本は精神科病床36万床、人口10万当たり280床という世界最高の精神科病床をもつことになり、入院患者の46%が在院5年以上という社会的入院が続いています。欧米では人口当たり日本の半分ぐらいの精神科病床で、患者は絶えず出入りし、地域社会に帰っているのと比べて、日本はいわゆる社会的入院が増えて、大変立ち遅れているのです。デイケア活動はこれらの社会的入院患者を地域に帰すことを期待されて、増えてきたのですが、入院前のプレホスピタル患者の治療に重点が置かれ、退院後のポ

ストホスピタル患者のための社会復帰に重点が置かれていなかったことに問題がありました。これを改善するために、生活支援者としてホームヘルパーとケアマネジメント従事者などの活動が期待されているのです。家庭のない人にはグループホームやショートステイを活用することを含んでいるのですが、グループホームを増やし、主治医の役割にもっと重点を置き、デイケアを活発化させることが不可欠です。予算も組まれて、全国の市長村の半分以上がすでに始めているのです。社会的入院患者を地域に帰し、主治医のいる法人の病院や診療所も経営主体となる事を認めて、ホーム・ヘルパーがケアマネジメント従事者の資格をとり、地域内でのリハビリテーション、特に家事、調理などを含む患者の自立を援助して、地域内での自立が可能になるように生活援助して行くとのことです。特に40歳の末頃から50代の人の地域生活の援助が必要です。最近病気になった20代、30代の方は、薬物療法やリハビリ療法で短期に退院できる人が増えてきました。働きながら外来に来ている人も増えているのです。医療と福祉が共同して、主治医、病院と診療所および1,000カ所を越したデイケアが、地域生活支援事業に参加して下さることを期待します。精神保健指定医の資格をもつ主治医は、老人保健における「かかりつけ医」よりもはるかに精神保健の専門家であり、デイナイトケアにおける薬物療法やSSTをふくむ集団精神療法は医療といってよいと思います。これに対して、精神病院協会からは、今度の療養病棟2で減少した病棟の分を、病院が精神障害福祉施設として使用することを求めています。社会福祉病院が医療か福祉かの問題は、日本でも1950年代に「中間施設」が問題になりましたが、結局医療機関になりました。また日本の老人保健施設では、福祉のもとにあっても相当の医療が可能となっています。医療と福祉の重複は、今後さらに必要があります。老人の医療と福祉の施設が不足しており、医学診断や治療法などの進歩が期待される現在、医療と福祉が協同する事は不可欠だと思われます。地域生活支援事業

に、地域担当のデイケアにおける薬物療法を始め、集団精神療法やSSTなどを含む治療的諸活動を推進させる必要があります。また地域生活支援事業の推進には、主治医の参加による事例研究や、ホームヘルパーの教育、ケアマネージメント従事者との意識疎通が大切であり、(老人介護では医師がケアマネジャーの資格をとった例もあります)、医師が家族の教育などに参加するとともに、デイケアにおけるポストホスピタルケアを推進する方向に進んでほしいと思われます。以上の変化について、次の総会で皆様のご意見を聞けることを楽しみにしております。どうぞ多数ご出席ください。

(東京医科大学)

ギー豊かで、楽しい企画ができたという面もあったのではないかと考えております。ただ一つ、来年以降の問題として、精神と老人というなかなか合体するのがむずかし領域をかかえているという問題を提起させていただきます。領域がちがっているので共通の問題意識や関心がとほしい、デイケアの内容がちがう、老人には全国レベルの会がいくつもあり当学会への参加動機が強くない、老人の場合いくつもの連絡システムがあり末端まで伝わりにくいなどです。今後のご検討をよろしくお願いいたします。

(高知医科大学神経精神医学教室)

日本デイケア学会第6回年次大会を終えて

第5回年次大会会長 井上 新平

昨年9月27日～29日に、第6回年次大会ならびに研修会を開催しましたところ、約700名という大勢の参加者をむかえることができ、大変ありがとうございました。大会準備運営委員、同実行委員ともども改めてお礼申し上げます。また特に、特別講演をいただいた中部大学教授 吉川武彦先生ならびに愛と結の街施設長 今村英仁先生、シンポジウムでご講演をいただいた諸先生、分科会にて一般演題をご発表いただいた諸先生、座長の先生、さらに研修会でお教えいただいた諸先生にはこころよりお礼申し上げます。

今回のテーマは『転機をむかえるデイケア』としました。わが国にデイケアが導入されて約40年、精神科デイケアが社会保険診療報酬で認められて約30年の歴史をふりかえるときに、いろいろな問題が出てきているのではないかという認識がありました。デイケアが入院に変わる役割を果たしているか、長期利用者が多くリハビリテーション機能として限界があるのではないか、スタッフやプログラムは現在のままでよいのかといったような問題です。会では、そのような問題をめぐって活発にご議論いただき、第7回大会への橋渡しができたのではないかと喜んでおります。

今回の運営に当たっては、地元の病院、施設、保健所、精神保健福祉センターなどに勤務する第一線のスタッフに中心になっていただきました。何分ふなれな面があり、皆さまにはいろいろとご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。しかし、さすがに現場を熟知した人たちのあつまりで、またエネ

● お知らせ ●

日本デイケア学会は、2002年4月にホームページを開設しました。

工事中で未完成な部分もありますが、御活用下さい。今後、会員にはパスワードを発行し会員専用頁にアクセスできるように計画しています。会員専用頁は掲示板と学会誌の閲覧頁からなる予定です。

尚、このホームページのドメインは

<http://www.daycare.gr.jp> です。

日本デイケア学会

The Japanese Society for Day Care Treatment

本会について ◆ 沿革 ◆ 会則 年次大会 ◆ 第7回年次大会 ◆ 年次大会一覧 入会案内 ◆ 入会申込みについて 掲示板 事務局へのお問い合わせ	役員・委員会 ◆ 理事長、副理事長 ◆ 委員会 学会誌【デイケア実践研究】 ◆ バックナンバー ◆ 投稿規定 リンク集 更新情報
---	--

日本デイケア学会
事務局 東京医科大学神経精神医学教室内
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 TEL03-3342-6111 (内線5754)
MAIL: info-d@daycare.gr.jp

日本デイケア学会第7回年次大会のご案内

大会テーマ 『手をつなぎ、より添う暮らし』

会 期 平成14年9月18日(水)・19日(木)・20日(金)

学 会：平成14年9月19日(木)・20日(金)

研修会：平成14年9月18日(水)

会 場 茨城県立 県民文化センター

〒310-0851 水戸市千波町東久保697

Tel: 029-241-1166

大会長 弘末 明良 (茨城県立友部病院院長)

講演Ⅰ：「お年寄りのリハビリテーションとデイケア（仮題）」

講師 大田 仁史 先生 (茨城県立医療大学付属病院長)

講演Ⅱ：「精神科デイケアの今日的課題（仮題）」

講師 浅井 邦彦 先生 (医療法人静和会浅井病院長)

講演Ⅲ：「デイケアと脳の科学（仮題）」

講師 朝田 隆 先生 (筑波大学臨床医学系精神医学教授)

◎日本デイケア学会第7回年次大会◎

趣 意 書

7回目の日本デイケア学会を、本年9月19日(木)を中心に、水戸で開催することになりました。大会の前日には研修会も行予定です。さまざまな活動でお忙しい毎日でしょうが、開催の趣旨をお汲みくださり、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

大会のテーマは、『手をつなぎ、より添う暮らし』といたしました。この意とするところは、世界的な不況下にとともすれば冷えて閉じていくところを、デイケアの場に持ち寄って少しずつ開き合い、共に語りしのいで不運や障害をわかちあおう、ということでもあります。

本学会は、精神科デイケアばかりではなく、老人のデイケア・通所リハビリテーションの発展を念じて、研究と情報交換、会員及び関連機関のひとびとの交流を図ってまいりました。精神医学・内科学・整形外科・小児科学等の「臨床・医療」におけるデイケアばかりではなく、障害者や要介護老人の「福祉・介護」におけるデイケアを、同一一人の人間に関わる一連のサービスと捉えて活動してまいりました。したがって、さまざまな職種の方や利用者の方が、一堂に会し経験と技能を共有してきたわけであります。

学会の理事長は、加藤正明先生(東京医科大学名誉教授、元国立精神衛生研究所長)が務められ、学会誌「デイケア実践研究」を、1997年から毎年2号発行しております。

医療・保健・福祉の各分野でデイ・ケア(サービス)に関わっておられる方々が、情報を交換し、今後の具体的活動について話し合います。参加される方々は、じかに顔を合わせて、各地の活動、様々な問題提起そして実際の技法を知るための良い機会を得られるでしょう。

皆さまのご参加を、水戸の地でお待ちいたしております。

平成14年2月吉日

弘 末 明 良

◎演 題 募 集◎

精神科デイケアに限らず、老人のデイケア・通所リハビリテーション、保健所デイケア、市町村・保健センターデイケア、施設デイケア、小規模作業所デイケア、小規模授産施設デイケア、知的障害者デイケア、各種デイサービスなど、多くの方々から一般演題を募集いたします。

〔記載項目〕

応募要領：官製はがきに右記枠内事項を記載の上、
下記年次大会事務局までお送り下さい。

*FAXでも受け付けます。

締め切り：平成14年5月15日(水)*

採否、発表時間等は事務局で決定後お知らせ致します。

事務局：〒309-1717

茨城県西茨城郡友部町旭町654

茨城県立友部病院デイケアセンター内

日本デイケア学会第7回年次大会事務局

TEL：0296-77-1151

FAX：0296-78-0334

日本デイケア学会 第7回年次大会演題発表希望

1. 演 題：

2. 演者氏名：

3. 職 種：

4. 所 属：

5. 連絡先住所：
(郵便番号)

TEL：

FAX：

※日本デイケア学会NEWS No.6の発行遅延に伴い、演題募集最終締め切りを5月31日まで延長しました。

【 デイケア 西から東から、北から南から… 】

秋田発～自然の中でともに 育つデイケアを目指して

水野 淳一郎

秋田県山本町にある石倉山の麓に長信田(ながしだ)の森心療クリニックを開院して早7ヶ月、不登校・引きこもりの青少年たちと葛藤する日々が続いている。秋田県内には20弱の精神科デイケア実施施設があるが、不登校・引きこもりの青少年を対象とした施設は当クリニックが唯一といってよい。具体的な活動としては自然と触れ合う体験を重視した農作業、陶芸等の創作活動、体力維持を目的としたスポーツ活動、これまでの自分自身を見つめ直し、これからの自分自身を考えるための心理教育活動等を組み合わせて実施している。自然から得られる効用を理論的に説明することは難しいが、ここでは時間がゆったりと流れ、実によい。デイケア参加者のなかからも様々な発案があり独自のサークル活動も生まれている。

デイケアの方向性として非現実的な「居場所」から社会との接点を持った「居場所」へ、そして、その接点が徐々に広がっていく結果として社会復帰に至れば望ましい。現在デイケア参加者のなかで、地域に出てボランティア活動(職場体験)をしている者が数名いる。ある者は酒屋に、ある者は商店に、ある者は印刷工場に……。これも「居場所」の中でじっくり自分自身を見つめ直し、自分たちなりにその焦りを処理できた結果だと評価している。

7月中旬には「長信田祭」と称し、地域ぐるみのお祭りを企画している。デイケア参加者も実行委員となりさまざまな手段を講じて地域への働きかけを行っている。地域と融合して行くなかで、少しでも精神医療に対する偏見が払拭されればと考える。この地に来て改めて「場」の重要性を痛感している。自然という「場」、人が群れるという「場」等々。

「長信田から文化を発信する」を合言葉に医療、教育、福祉という枠を超えた活動を目指している。(敷地内に生活塾「自在館」(滞在型の教育施設)を併設している。)

(長信田の森心療クリニック 精神保健部長)

デイケアわかくさの現状と課題

石黒 健一

デイケアわかくさは、医療法人社団玄洋会道央佐藤病院の分院である若草クリニックの併設デイケアとして平成元年4月に開所しました。その後、平成10年11月に大規模デイケアとなり、現在はデイケアを週6日、ナイトケアとアルコールデイケアをそれぞれ週1日開催しています。デイケアわかくさは、北海道苫小牧市のほぼ中心部に位置していますが、地域の特性上公共交通機関の利便性が悪いいため、送迎バスの運行を行っています。

私共のデイケアでは、地域生活を送る上で生活のリズムを作る、対人関係の向上を図る、その人なりの生活のスタイルを見つけてもらうことを目標として、利用者の生活に密着した関わりを持っています。地域内には、生活支援センターや授産施設、共同作業所等があり、複数の資源の利用者もいるため、必要に応じて連絡・調整を行っています。

プログラムは、利用者の主体性と自主性を最大限尊重し、それを活かすためにミーティングを重視しています。結果として利用者が自由に意見を述べ、一緒に活動を考えていける関係が築けていると思われます。昨年度は、利用者からの意見を元に、地域の共同作業所やボランティアサークル、他デイケアとの交流の機会を持ったり、社会参加としてボランティア活動にも取り組む等して、活動の幅が増えつつあります。

来年度は若草クリニックの移転が決定しており、それに伴ってデイケアも移転し、施設や利用者数の規模も大きくなる予定ですが、それに向けてグループの凝集性をどのように維持、発展されていくかという問題への取り組みを始め、移転に向けたプログラムの再構築も進めていかなければなりません。今年度はデイケアの過渡期であると考えています。その中で、利用者不在で問題の解決を図るのではなく、デイケア運営の根幹として重視している利用者の主体性を活かしながらどうスタッフが動いていけるか、また、過渡期ではありながらも今現在の利用者への関わりが疎かにならないようデイケアを運営していく、それが今年のデイケアに課せられている課題ですが、スタッフが一丸となってこれらの対処にあたり、新しいデイケアへ向けて充実、発展していけるよう努力していきたいと考えています。

(医療法人社団 玄洋会 若草クリニックデイケアわかくさ、PSW)

日本デイケア学会役員(平成12年9月5日第5回年次大会総会)

理事長：加藤正明、副理事長：小林暉佳(事務局)、斎藤和子、監事：佐々木勇之進、柏木昭

理事：浅野弘毅、池田良一(事務局次長)、井上恵子、岩下覚、榎本稔、大丸幸、大森文太郎、岡部紘一、萩原健志、越智浩二郎、小野寺敦志、佐々木千鶴子、高林健示、弘末明良、古屋龍太、松永宏子、松田ひろし、良田麗明

評議員：五十音順

浅井邦彦(DR千葉)、浅野弘毅(DR宮城)、池田良一(DR東京)、伊藤祐臺(DR東京)、井上恵子(DR東京)、岩下覚(DR東京)、内田洋一(OT茨城)、榎本稔(DR東京)、大丸幸(OT福岡)、大森文太郎(DR岡山)、岡部紘一(心理 東京)、萩澤健志(心理技術 東京)、越智浩二郎(心理 千葉)、小野寺敦志(心理 神奈川)、加護野洋二(DR大阪)、柏木昭(PSW埼玉)、加藤正明(DR東京)、川副泰成(DR千葉)、菊地頌子(保健婦 東京)、窪田彰(DR東京)、熊倉徹雄(DR福島)、栗原活雄(PSW東京)、栗原毅(CP千葉)、小杉好弘(DR大阪)、小林暉佳(DR東京)、小谷野博(CP東京)、斎藤和子(NS千葉)、佐々木千鶴子(PSW宮城)、佐々木勇之進(DR福岡)、清水宗夫(DR東京)、菅野圭樹(DR福島)、高江州義英(DR沖縄)、高林健示(CP東京)、武田専(DR神奈川)、田中英樹(PSW佐賀)、富岡詔子(OT長野)、内藤清(OT神奈川)、長瀬輝誼(DR東京)、西園昌久(DR福岡)、平川淳一(DR東京)、平田豊明(DR千葉)、弘末明良(DR茨城)、藤井康男(DR山梨)、古屋龍太(PSW東京)、穂積登(DR東京)、堀内久美子(OT東京)、松田孝治(DR大阪)、松田ひろし(DR新潟)、松永宏子(PSW東京)、山中恵子(OT東京)、良田麗明(DR神奈川)

委員会

渉外委員会：弘末明良(委員長)、岩下覚、榎本稔、岡部紘一、斎藤和子、小林暉佳(事務局)、池田良一(事務局)

広報委員会：榎本稔(委員長)、栗原活雄、小谷野博、高林健示、竹田裕明、古屋龍太、良田麗明、小林暉佳(事務局)、池田良一(事務局)

研修委員会：松永宏子(委員長)、川副泰成、栗原毅、小林政子、内藤清、小林暉佳(事務局)、池田良一(事務局)

編集委員会：浅野弘毅(委員長)、萩澤健志、小野寺敦志、川副泰成、関なおみ、山中恵子、小林暉佳(事務局)、池田良一(事務局)

(査読委員：岩下覚、佐々木千鶴子、田中英樹、松田ひろし)

施設基準と倫理委員会：小林暉佳(委員長)、小野寺敦志、窪田彰、菅野圭樹、長瀬輝誼、平川淳一、古屋龍太、松永宏子、池田良一(事務局)

入会申込

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更されました。

現在約800名の会員があり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めておりますが、今後幅広くその他のデイケアおよび関連分野で活躍されている方々の参加も望まれます。また、年次大会は一昨年は郡山で、昨年は高知市で開催されました。今年度は9月に水戸市で開催されます。

1. 入会申込書

入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 入会金および年会費

正会員：入会金1,000円+年会費8,000円=9,000円

団体会員：3名までは、入会金5,000円+年会費20,000円=25,000円

(3名を越えるときは、1名につき年会費5,000円を加算してください)

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 東京医科大学精神医学教室内 日本デイケア学会事務局 池田良一

TEL: 03-3342-6111, FAX: 03-3340-4499, e-mail: info@daycare.gr.jp